

春日部がもっと好きになる、まちの情報誌

kasukabe

Plus
かすかべプラス

2017 FALL/WINTER vol.9

「川・水辺」に人が集うまち。

春日部の水辺の魅力
肌で感じてみませんか？



2017 FALL/WINTER vol.9

【表紙の人】

春日部在住のカメラ女子で、「かすかべ+1サポーター」としても活動していただいている島田優希さん。4月上旬の気持ちのいい朝、牛島古川公園のそばで撮影しました。

春日部の水辺の魅力

肌で感じて みませんか？

CONTENTS

巻頭エッセイ.....02

1 水辺には“キレイ”がいっぱい！.....04
～カメラ女子と古利根川を歩く～

2 ようこそ、「水辺の森」へ。.....08

3 古隅田川ミステリー.....10

4 私たちが水辺を守ります！.....12

5 かすかべ「川・水辺」マップ.....14



1967年、熊本県八代市生まれ。1991年日本気象協会に入職後、NHKテレビの気象キャスターとなり「おはよう日本」、「ニュースウォッチ9」などの気象情報を担当。現在は株式会社ウイング常務取締役として、講演活動や後進の指導にも力を注いでいる。また、2013年にかすべ親善大使に就任。中学・高校時代の陸上競技経験を活かし、ゲストランナーとして「春日部大鳳マラソン大会」にも毎年出場している。

巻頭エッセイ

ひらい のぶゆき

平井 信行

(かすかべ親善大使・気象予報士)

マラソンが趣味の私にとって、川辺はトレーニングの場所であり、同時に、交流の場でもあります。

みんなて

シティセールスシンボルマークを使おう！



プラスワン「+1」とはこのまちに住む一人ひとりが大切に想う「春日部の好きなおところ(魅力)」のこと。マークを使ってみんなで魅力を共有しよう。詳しくは市公式HPへ。



この情報誌には、写真が動くAR動画を掲載しています。

シティセールスシンボルマークのアイコンのある写真でAR(エアーリアル)動画を楽しめます。スマートフォンやカメラ付きタブレットでAR動画を再生するには、無料アプリ「Aurasma」(オーラズマ)をインストールしてください。詳しくは市公式HPへ。

が望める冬の風景が特に気に入っています。

また、人とのふれあいが楽しめるのも川辺ならではの魅力です。開放的な風景の中に身を置く、人はおらかな気分になって誰かとおしゃべりしたくなってくる。

「今日は天気がいいですね」という何気ない一言から会話が弾んだり、初めて会った人から「いつもテレビで見えますよ」と優しく声をかけられたり……。おだやかに流れる古利根川は、そこに集まる人々の心もおだやかにしてくれるようです。

春日部は本当にいいところですよ！

卒業後は「日本気象協会」に就職しましたが、気象の仕事に実際に就いてみて、大学時代に教育を学んだのは無駄ではなかったことに気づきました。キャスターも教員も、ものごとを分かりやすく伝える仕事という部分では共通しているし、結論を述べた後に細かい部分を説明していくという授業の進め方を、放送台本の構成に応用することもできました。

春日部に住み始めたのは、都心にも近く、自然環境にも恵まれている点に魅力を感じたからです。近隣の自然スポットの中でも一番のお気に入り古利根川。体力作りのために毎日土手を走っていますが、桜が咲く春と、澄んだ空気の向こうに富士山

気象キャスターという職業に憧れを抱くようになったのは小学校高学年の頃。私が生まれ育った熊本県八代市は、梅雨期の降水量が非常に多い地域で、近くを流れる球磨川がたびたび氾濫を起こしていました。もともと自然や科学が好きで、テレビの気象情報にも関心があった私は、「将来は天気を分かりやすく伝える気象予報士になって、人々の役に立ちたい」と考えるようになったのです。

高校卒業後は、教育学部の中に気象学ゼミがある東京学芸大学に進学しました。当時の私は気象の道に進むべきか、教員の道に進むべきか迷っていて、両方を学んでおけば将来どちらの道に進みたくなっても安心だと考えたのです。しかし、いざ入学すると教育より気象研究の面白さにどんどん引きこまれていきました。



撮影時の小道具として使っている「羽根つき」の羽。レンズの前に好みの色を写し込むことで、幻想的な仕上がりになる。

足元に咲く小さな花が印象的な被写体に

「幼い頃は、父の転勤が多かったので、『ふるさと』と呼べる場所が欲しいなあって、ずっと思っていたんです。春日部に住むようになったのは小学1年生のときですが、とりわけ結婚して子どもができてからは、『ここが私のふるさと』という思いは、いっそう強くなりました」

そう語るのは、0歳児と2歳児の母親でもある島田優希さん。彼女は平成28年3月に市が開催した「春の予感 さらめく大落古利根川 春日部満喫撮影ツアー」の参加者のひとりだ。このツアーは、カメラ女子を中

心に人気の写真家・山本まりこさんが講師として同行する女性限定の撮影ツアー。参加者たちは、「川・水辺」をテーマとした春日部市の魅力を体感しながら、撮影技術を学んだ。

「上の子が生まれた頃から、育児の合間のリフレッシュを兼ねて写真を撮り始めたんです。最初は漫然と撮っているだけだったのですが、何か物足りなさを感じていました。そんなある日、SNSで山本まりこさんの作品を見て、ひと目でファンになりました。何げない風景を印象的に切り取った、ふんわり、やさしい雰囲気……これこそ、私が撮りたかった写真だと感じました。だから、春日部でまりこ先生を講師として撮影ツアーを開催すると知って、子どもを預けて参加したんですよ(笑)」

快晴の春の一日、古利根公園橋を起点に、島田さんと大落古利根川を歩く。この日は桜が満開。カメラを手にした彼女は、さっそく被写体を探して川辺の風景を見わたしている。最初にレンズを向けたのは、桜ではなく足元に咲く小さな花だった。

「ふだん川辺で写真を撮るときも、足元の草花に心惹かれますね。朝早く訪れると、朝

「思いがけない出会い」も「カメラ散歩」の魅力

次に彼女が足を止めたのは、「ゆりのき橋」のたもとにある、小さな花壇。市民団体のみなさんが、花の手入れを行っているところだった。「こんにちは。写真を撮らせていただいてもいいですか?」と声をかけると、「いいよ! きれいに撮って

露がビーズみたいにキラキラ輝いて、とてもきれいなんです。風がおだやかな日は、水面に映る風景を狙うこともあります。陽が高い時間帯よりは、朝や夕方の光で撮影したほうが、印象的な写真が撮れるんですよ」

島田さんは立ち上がると、さらに川下に向かって歩を進めていく。

今回の取材の際に島田さんが撮影した写真の数々。そこには、水辺でゆったりとした時間を過ごす人々の姿があった。



「川・水辺」に人が集うまち。

水辺には“キレイ”がいっぱい! ～カメラ女子と古利根川を歩く～

春日部市では、“カメラ女子”に大人気の写真家・山本まりこ氏を講師に迎え、女性限定の「春日部満喫撮影ツアー」を定期的に開催している。ツアー参加者の島田優希さんと春の古利根川を歩きながら、「川・水辺」の魅力を聞いた。

カメラ歴3年
しまだ ゆうき
島田 優希さん

神奈川県川崎市生まれ。7歳から春日部に居住。日常の何気ない風景をふんわり優しく表現する山本まりこさんの「エアリーフォト」に出会い、写真に熱中。春日部の風景を撮り続けている。

「古利根川」 撮影ノート

四季折々の表情を見せてくれる古利根川。
取材に協力していただいた島田さんの作品を紹介します。
とっておきのビューポイントを教えてくださいました。



▲エンゼル・ドーム周辺で撮影。夕日が沈みだてのマジックアワーと言われる時間帯がとてもオススメです。魔法のように美しく撮影できて、川面に映る空や建物が幻想的な雰囲気演出します。



▲川辺の緑のじゅうたんもすてきな撮影スポット。足元には季節によって、ツクシやオオイヌノフグリなどかわいい被写体が。太陽が低い時間帯には、川面がキラキラ光るのでキレイな風景が撮れます。



▲ゆりのき橋の近くにあるお花畑も四季を感じられる場所。背の低い花は真上から撮るとオシャレな感じに。花とハチや蝶々などの生き物を一緒に撮ると動きを感じる写真になります。



▲春の川辺は菜の花がたくさん咲きます。春風に揺れる菜の花ってかわいいですね。菜の花と電車、菜の花と夕日など、ほかの要素とのコラボレーションも楽しいので、ぜひ春にトライしてみてください。

ゆりのき橋

藤塚橋

川の駅ふじつか公園

▲川の駅ふじつか公園付近にタンポポの綿毛を発見。ふわふわを表現したくてボケ感を強めに撮りました。川の駅には花壇やあずまやがあり、川辺をゆっくり堪能しながら撮影できるスポットです。



島田さんは、軽くてコンパクトなミラーレス一眼がお気に入り。レンズは旧ソ連製のオールドレンズを使用している。「独特のボケ感が魅力なんです」



足元の草花を撮影する島田さん。「姿勢を低くして、花に目線を合わせて観察するところから撮影が始まります。季節や時間帯によって思わぬ発見があるんですよ」

ね」と返事が返ってきた。こんな何気ないやりとりも、「カメラ散歩」の魅力だと島田さんは語る。
「子どもたちを連れて写真を撮っている」と、歩いている人が気さくに声をかけてくれるんです。私や子どもたちのことを知ってくれている人が増えるのは、とてもうれしいことですね。ひよっとすると、自分が幼い頃にできなかった「ぶるさどづくり」を、いま一生懸命にやっているのかもしれない。そして子どもたちにも、春日部の風景が移り変わっていく姿を心に焼きつけてほしい……。

「心のバリア」を解いて 人と人がふれあえる場所

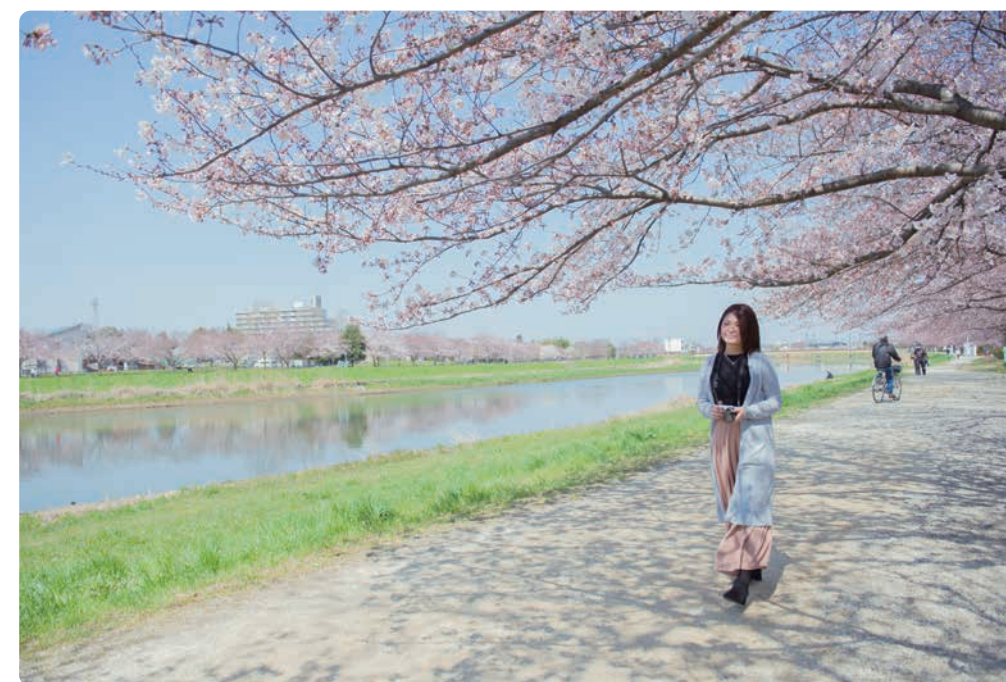
将来、子どもたちと一緒に思い出を語り合うための、いっぱい写真を残しておいてあげたいんです」
島田さんの写真には、こんな特別な思いがこもっていた。

ゆりのき橋を渡って、今度は川上に向かって歩く。やがて東武アーバンパークラインの鉄橋が見えるあたりまで来ると、満開の桜並木の下で、たくさんの人たちが思い思いに過ごしている。幼い子の手を引いて散歩するおばあちゃん、枝にとまった小鳥を指さして何か話している熟年夫婦。ふと、島田さんは構えていたカメラを下ろして、「なんだか、みんなニコニコしてますね」と、つぶやいた。

「子どもと一緒に川辺に来ると、『お子さん、いくつ?』とか『何を撮ってるの?』とか、中には『お子さんと一緒に写真、撮ってあげようか?』なんて言ってくれる人もいます。最近はメールやSNSでのコミュニケーションが中心で、体温を感じられるような人間関係が希薄になっているような気がします。でも、ここへ来ると、みんなが『心のバリア』を解いて、ゆったりとした関係

を楽しんでいるような気がするんです。『ああ、春日部っていいなあ』と感じる瞬間ですね」

この日、島田さんが最後にレンズを向けたのは、「人々が思い思いに時を過ごす水辺の風景」だった。そして彼女は、こう語ってくれた。
「水辺には、いつも新たな発見や人との出会いが待っています。この魅力を、ぜひ、多くの市民の方に知っていただきたいですね」



「かすかべ+1サポーター」として、ツイッターやブログで春日部の魅力を発信している島田さん。「“よしてい”という名前で、好きな風景や、おいしい食べ物、子育て情報などについて、写真や文章で紹介しています」



緑地の一角には農業用水路(右写真)が流れているため、水辺に生息する動植物の姿も多く観察できる。自然観察会は事前申し込み不要、参加費無料。開催日時は、市の広報などで掲載予定。



ようこそ、「水辺の森」へ。

春日部市内には、私たちの目に触れることのない巨大河川が存在する。平成18年に完成した治水のための地下水路「首都圏外郭放水路」がそれだ。放水路の上には、約1.5ヘクタールに及ぶ「水辺の森」が広がっていて、自然と向き合い、自然から学ぶ観察会が年数回開かれている。

自然観察会は、埼玉県生態系保護協会春日部支部のメンバーも講師役

足元の小さな自然から学ぶこともたくさんある

この日の観察会は、まだ初夏とあってカブトムシやクワガタは見られなかったが、蝶やバッタ、テントウムシなどの小さな昆虫を発見するたびに歓声があがっていた。

会、市民団体G-CANS(メンバー)は、森の成長を見守ってきた一人だ。「この森は、生態学者の宮脇昭先生が提唱する宮脇方式という植樹法で作られました。それは、その土地本来の気候風土に適した植生を調査し、その土地に合う多くの樹種の苗木を植えるというものです。水辺の森は、25種類の苗木が植えられています。自然淘汰によって枯れてしまいう木もありますが、できるだけ人の手を加えずにいたら、自然の力が森を育んでくれるんです。まさに、本来その場所にあるべき「自然の森」になっていくんです」と両角さん。「さらに樹木が成長するにつれて、もともとその土地に生息していた多種多様な生物も姿を見せるようになってきます」

市民が植えた小さな苗木が今は豊かな森になっている



水辺の丘運営協議会構成員
もうずみ みのる
両角 實さん

市内の中小河川が台風などで増水したときに、その水を地下に取り込み、江戸川へ流すために作られた首都圏外郭放水路。全長6・3キロの巨大地下水路だ。そのコントロールセンター「庄和排水機場・龍Q館」の周辺は、さまざまな樹木が鬱蒼と茂る「水辺の森」と呼ばれる緑地になっている。

こんな身近に人の手を加えない自然の森がある

10年前に植樹に参加したことをきっかけに、水辺の森の保全活動に関わる両角實さん(水辺の丘運営協議



水辺の丘運営協議会は、外郭放水路が地域の新たな文化と人々の交流の場となることを目的に結成された組織で、国土交通省、春日部市、市民団体G-CANSの三者で構成されている。協議会・G-CANS会長の錦織晴雄さん(写真)のあいさつから観察会はスタート!



観察会の講師を務める埼玉県生態系保護協会春日部支部長の三好あき子さん。市と協力しながら、小学生の環境学習も行っている。「子どものうちから身近な環境問題に関心を持つことはとても大切なことです」

「観察会をきっかけに、身近な自然にふれ、自然の豊かさ大切に気づいてくれるとうれしいですね」
両角さんたちは、自分たちが植樹し、自然の力が育んだ水辺の豊かな森で、虫捕り網を手に、目を細めてほほ笑んだ。

「さわってみる」
ことが大事
なんだって!



お父さんと一緒にはじめて観察会に参加した武藤有希さん(緑小学校3年)。ふだんから昆虫の生態に興味があり、自宅ではカブトムシの幼虫を飼育中だとか。「今日はいろんな昆虫が見られてすごく楽しかった。また参加したいなあ……」

古隅田川ミステリー。

四季折々の自然とふれあえるのも川の魅力だが、歴史や地形に注目した「謎解き散歩」も面白い。地質学の専門家にお話をうかがいながら、古隅田川のミステリーに迫ってみた。さて、そこにはどんな発見が待っているか、さっそく出かけてみよう。

1 流れが逆だったってホント？



現在の古隅田川は大落古利根川へと注いでいるが（指しているのが合流地点）、利根川東遷事業がスタートする以前は、逆に古利根川から古隅田川へと水が流れていた可能性がある。

3 かつての流路はどこ？

砂丘付近に広がる浜川戸遺跡では、弘安6年（1283）と刻まれた板石塔婆が発掘されたことから、鎌倉時代中頃以前の古隅田川は、南に大きく蛇行して流れていたと考えられる。

2 なぜ富士塚がここに？

春日部八幡神社に隣接する八幡公園には、高さ約13mの「富士塚」（写真）が造られている。これは川の氾濫と季節風によって生まれた砂丘の高まりを利用して江戸時代に造られた。

砂丘の場所を調べればかつての流路が分かる



「境内周辺の地表面に注目してみてください。神社周辺にはサラサラとした砂地がありますね。なぜこのような砂地があるか分かりますか？」確かに、神社周辺は樹木が生い茂る鎮守の森のようではあるが、明らかに他の場所の地質とは異なる砂地の場所がある。

4 暴れ川だった！

新方袋から南中曽根にかけての約1.5キロの区間には「古隅田公園遊歩道」が整備されている。これは昔の古隅田川の土手の上に作られたもので、現在の水の流れが土手の遙か内側にあるのを見ると、古隅田川がいかに大きかったのかがイメージできる。

5 江戸時代には？



古隅田公園の一角には元文2年（1737）に古隅田川に架けられた「やじま橋」（長さ5.4m）が移築されている。江戸中期にはすでに水量が減り、川幅も狭くなっていたようだ。



城殿宮橋付近から眺めた古隅田川。現在は緩やかなカーブを描きながら流れているが、かつてはこの先で右に大きく蛇行していたと思われる。

春日部市教育委員会
文化財保護審議委員
平社 定夫さん



*利根川東遷事業＝江戸幕府による大規模な河川改修工事。それまで東京湾に注いでいた利根川の河道を徐々に東に移し、銚子で太平洋に注ぐようにさまざまな川の付け替えが行われ、関東の河川レイアウトが大きく変わることになった。

八幡神社周辺に広がる「浜川戸河畔砂丘」。現在は樹木が生い茂る鎮守の森や公園へと変貌しているが、地表面をじっくり観察すると、さらさらとした砂地で覆われた場所であることが分かる。（県指定天然記念物）



「川・水辺」に人が集うまち。

倉松川を愛する会

私たちが水辺を守ります！

川沿いの土手や遊歩道がきれいに保たれている陰には、川の美化に取り組んでいる地域活動団体の存在がある。

倉松川と旧倉松落第二調節池で活動が続けている2つの団体を紹介する。

倉松川はかつての姿を
取り戻しつつある

地元の新年会で「倉松川の汚れがひどい。何とかしよう」と声が上がったのがきっかけで、平成17年に結成されたのが「倉松川を愛する会」。当初は川の清掃が活動の中心だったが、現在は、川辺の動植物の育成環境の維持創生や市と協力して小学校の環境学習を支援するなど、さまざまな活動に取り組んでいる。

会長の内山裕幸さんは、「子どもたちに蝶の標本作りを指導したり、川に生息する生き物を一緒に観察したり、身近な自然について学ぶ授業をフォローするのが私たちの役目。特に蝶の標本作りは、牛島小3年生を対象に毎年開いています。桐材の立派な標本箱を使って作るので、子どもたちからも大変好評なんです」と話してくれた。

この日は牛島小4年生を対象とした「倉松川の生態調査」の授業。数日前に会のメンバーが仕掛けた網の中にテナガエビ、タナゴ、ヨシノボリなどがかかっているのを見つけた子どもたちが「すごい！こんなに大きなエビが倉松川にいたんだ」と歓声を上げると、「タナゴを見てもらえん。タナゴが捕れるということとは川がきれいになってきた証拠なんだよ」と内山さんが優しく説明する。子

どうぞ、旧倉松落第二調節池に散歩に来てください！

一方、旧倉松落第二調節池周辺の遊歩道の除草や花の植栽活動を行っているのが、「旧倉松落第二調節池を守る会」。近くに畑を借りて家庭菜園を楽しんでいた仲間たちが中心となって、平成11年に結成された。

会長の高野とし子さんによると、「調節池のまわりが雑草だらけになっているのを見て、自分たちができることはないかしらと思ったのが会を作ったきっかけです。それから月に2回集まって除草を行うことにしました。やがて、会のみんなが花が好きなこともあって、さまざまな花を植えるようになりました」



川が増水した際に、水量を調整する役目を果たしている旧倉松落第二調節池。釣り場としても人気。

現在は、ポピーやラベンダー、アジサイ、コスモスなど四季折々の花が遊歩道を彩り、川辺を歩く人の目



取材時にはポピーが満開だったが、これからの季節はマンジュシャゲ(9月)、コスモス(10月)が楽しめる。

を楽しませているが、毎年きれいな花を咲かせるには苦勞もあるとか。

「花が咲いたあとの作業が意外に大変なんです。花が終わった後は、まづ翌年[※]のために種を取り、その後、茎を刈り取って外に運び出さなきゃならない。でも、散歩している人から『いつもきれいにしてくれてありがとう』って声をかけてもらうと、不思議と疲れなくて吹っ飛びますね」

また、作業後はお菓子を持ち寄ってお茶会を開くのが恒例となっている。こうした仲間とのコミュニケーションも会の大きな楽しみだという。「悩みがあるとすれば、メンバーの高齢化が進んでいること。みなさんに喜んでいただくためにも、現在のメンバーともできる限り長く活動を続けていきたいと話しています。が、今後は若い人にも参加してもらえよううれしいですね」

会長
うちやま ひろゆき
内山 裕幸さん

内山さんが自然保護に関心をもったきっかけは、身近で思いがけずジャコウアゲハの群れを見つけたこと。そこで倉松河畔に遊歩道を作り、蝶の森を整備して保護に努めてきた。今では20種類以上の蝶が生息する昆虫の楽園となって、地域の人たちに親しまれている。



どもたちのうれしそうな姿を見たメンバーたちからも、笑みがこぼれた。「目をキラキラと輝かす子どもたちの姿を見るのが私たちの活動のエネルギーです。倉松川が本当にきれいな川によみがえるためには、私たちの世代だけでは時間が足りないのです。彼らにしっかりと受け継いでほしいです」と、メンバーたちは子どもたちの顔を見つめながらほほ笑んだ。

季節ごとの花を楽しんでください



会長
たかの
高野 とし子さん

「都心ではご近所づきあいが減っているといわれますが、地域ボランティアに参加すれば孤独に悩むこともなくなるはず」と語る高野さん。毎年10月にはメンバーが作った野菜を販売するバザー(コスモス祭り)も開催。

旧倉松落第二調節池を守る会



かすかべ「川・水辺」マップ



▲内牧黒沼公園の蓮池では6月に約1,400本のハスの花が咲きます。市民団体によるホテルの飼育が行われていて、7月には鑑賞会も開催されています。



◀やじま橋。元文2年(1737)に、岩槻城主永井氏のために古隅田川にかけられた県内でも最も古い石橋のひとつ。市指定有形文化財。



▲エンゼル・ドームでは、夏期期間に噴水(6月1日～9月30日)やスライダー(7月1日～8月31日)で水遊びができます。ドーム前広場では、ホピー、ヒマワリ、コスモスなど季節の花々を楽しむことができます。

(*マーク=桜の名所)

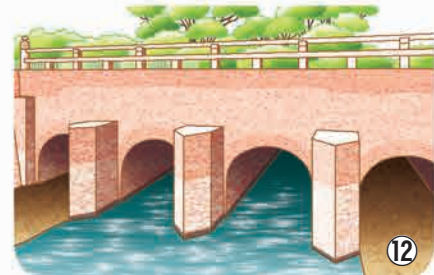


桜 川・水辺の桜の名所
春日部の川・水辺には、桜の名所が数多くあります。中でも大落古利根川の両側を彩る桜並木は圧巻。水辺のきれいな景色を楽しむながら、みなさんもお気に入りの桜を探してみたいですか？

⑩ 内牧黒沼公園



▲「夕涼みフェスティバル」が毎年8月中旬に開催されます。ボート遊覧、カヤック体験、灯籠流しなどを楽しめるほか、夕暮れ時には川風にのびのびと、素敵な音楽をどうぞ。



▲のめがね橋。明治24年(1891)6月に設置された旧倉松藩に架かる4連アーチを持つレンガ造りの橋門。現存するレンガ造り橋門としては県内で2番目に古い。市指定有形文化財。



① 西宝珠花多目的広場

◀庄内領悪水路沿いには桜並木の散策道が整備され、春には菜の花、スイセンなど、秋にはマンジュシャゲやコスモスが咲きます。



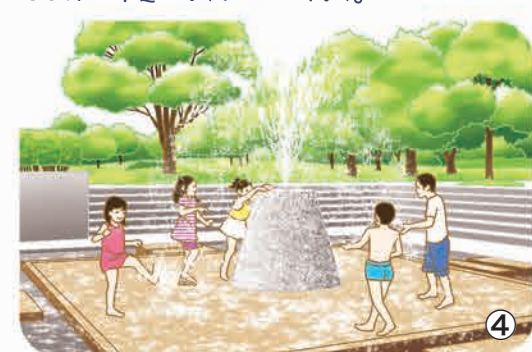
大岡あげ祭り。西宝珠花地先江戸川沿い敷で、毎年5月3日、5日に開催。



大岡マラソン大会。毎年5月4日、江戸川堤防沿いのコースで開催。種目は2K、5K、10K、ハーフがあり、小学4年生以上がエントリー可能です。



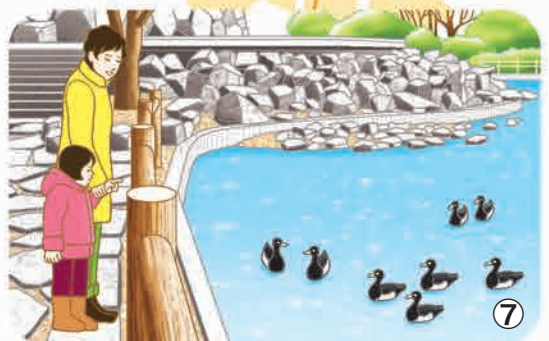
首都圏外郭放水路の「地下神殿」と呼ばれる巨大な調圧水槽を見学できます。見学会は、無料・予約制。また、毎年11月の中旬には、彩龍の川まつり、首都圏外郭放水路特別見学会、江戸川カルパ市が同時開催されます。



▼庄和総合公園では、噴水の広場と滝から流れ出るせせらぎで水遊びをすることができます。



▼大池親水公園は池と緑の融合が美しい公園で、池にはさまざまな水鳥が飛来し、優雅な姿を見せてくれます。



▼五ヶ門樋付中庄内樋管、排水機場跡。明治25年(1892)に作られたレンガ造りのアーチ型橋門。県指定有形文化財。



▼薬師沼親水公園の池の護岸は整備されていて、釣りをすることができます。



こちら、シティセールス広報課です！

INFORMATION

10月1日は「春日部市民の日」です！

「春日部市民の日」とは、市民の皆さんが、郷土の歴史と文化を振り返り「ふるさとかすかべ」への愛着と誇りを持ち、春日部市民であることを自覚し、市民同士の一体感や共感をぐくみながら、春日部市の将来のまちづくりを考える日です。これを記念して、10月には市内各所でさまざまなイベントが実施されます！

詳しくは **春日部市民の日**

市内各所でイベントが盛りだくさん！▶



かすかべ+1サポーターを募集しています！

「かすかべ+1サポーター」とは、春日部の魅力や地域資源など、「春日部の良いところ」を、市民の皆さんならではの目線でPRして、本市のシティセールスを応援してくれる皆さんです。個人を対象とした「個人サポーター」と企業・団体を対象とした「企業サポーター」の2種類があります。たくさんの方のご参加をお待ちしております！詳しくは **かすかべ+1サポーター**

サポーターの皆さんの自主企画でイベントも行われました▶



PRESENT

感想をお寄せいただいた方の中から 抽選で3名様にプレゼント！



平井信行
さん
サイン入り



かすかべ親善大使
気象予報士 平井信行さん監修
平井信行さん 『天気と気象のしくみパーフェクト事典』

- 応募受付期間…平成29年10月1日(日)～平成30年2月5日(月)必着
- 応募方法……………①市公式ホームページ内専用フォームからご応募ください。
→ **かすかべプラス** で検索！
②官製はがきに以下の項目をご記入の上、ご郵送ください。

□お名前・性別・年齢・ご住所・電話番号
□本誌の入手先 □よかった記事(ページ番号) □ご意見・ご感想
《応募宛先》〒344-8577 春日部市中央六丁目2番地
春日部市役所シティセールス広報課 かすかべプラス第9号プレゼント係
※賞品の当選は発送をもって発表に代えさせていただきます。
※応募の際にご提供いただく個人情報(氏名・住所等)はこの企画以外の目的には使用しません。



「自然や景色を大切に守ってきたい」という水辺に対する想いがあるからではないでしょうか？
日常の何気ない景色と普段は通り過ぎてしまう場所でも、水辺に対する想いや歴史などを振り返りながら訪れてみると、新しい発見やいつもとはちよつと違うすてきな景色が見えるかもしれません。
かすかべプラスをご覧の皆さんも春日部の川・水辺に実際に足を運んで、身近な自然の豊かさを肌で感じて、自分のお気に入りのスポットを探してみたいいかがですか？
(春日部市シティセールス広報課)

EVENT

11月は春日部のまちが音楽に包まれます

11/3 (金・祝) **ブラス・ジャンボリーinかすかべ**
会場:ふれあいキューブ / 主催:春日部市

11/19 (日) **わがまちの音楽家たち**
※要整理券
会場:春日部市民文化会館大ホール / 主催:春日部市



11/1 (水) 30 (木) **まちかどコンサート**
会場:商店など市内各所 / 料金:会場ごとに異なる / 主催:まちかどコンサート実行委員会

11/4 (土) **JazzDayかすかべ2017秋**
会場:中央町第4公園ほか / 主催:ジャズデイかすかべ実行委員会

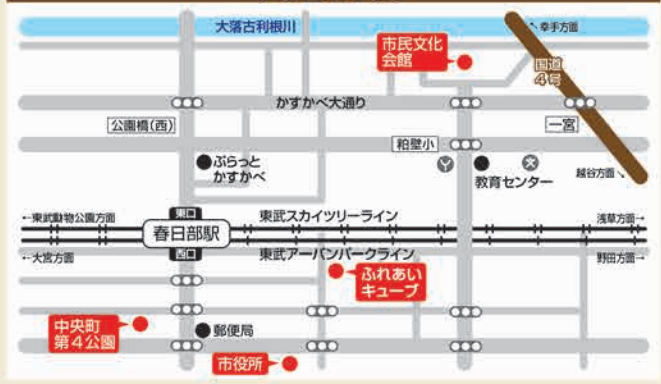
11/12 (日) 26 (日) **ファミリーコンサート**
会場:エンゼルドーム / 主催:エンゼルドーム



11/14 (火) 18 (土) **第12回春日部市美術展覧会
ホワイエコンサート**
会場:ふれあいキューブ / 主催:春日部市、春日部市教育委員会、春日部市美術展覧会実行委員会

11/18 (土) **平和コンサート** ※要整理券
会場:春日部市民文化会館小ホール / 主催:春日部市

アクセスマップ



READERS VOICE

読者からの声を紹介！

“ものづくりで人が輝くまち”と題して、「春日部のものづくり」をテーマとした『かすかべプラス第8号』に対してお寄せいただいた、ご意見・ご感想の一部を紹介させていただきます。

毎号楽しみにしています。私は大阪出身なので、かすかべプラスは住んでいる街を深く知るとしても大事なツールです。

(市内在住・女性)

全体的に写真が本当にいいですね！人と人のつながりが希薄になっている今だからこそ、人にスポットが当たっている記事に親しみが持て、とても魅力的に思えました。

(市外在住・女性)

編集後記

今回のかすかべプラスのテーマは、「水辺」です。川・水辺は、昔から人々の暮らしには欠かせない資源であるほか、教育の場や遊びの場になるなど私たちの生活にとって身近な存在です。

春日部市には、古利根川をはじめ、江戸川や中川など多くの川が流れており、親水公園などでは四季折々の水辺の景色を楽しむことができます。今回、訪れた場所でも、たくさんの市民の方たちが散歩をしたり、ジョギングしたり、ベンチでおしゃべりしたり、と思い思いに楽しんでいる光景を目にしました。

また、取材に協力してくださった皆さんが、いきいきと自分たちの活動を楽しそうに話してくれる姿がとっても印象的でした。川や水辺に人が集まり、憩いの場として誰もが楽しそうに見えるのは、その場所に愛着や親しみをもちながら活動している方たちの「たくさんの人に来てもらいたい」「もっと好きになってもらいたい」「自然や景色を大切に守ってきたい」という水辺に対する想いがあるからではないでしょうか？

日常の何気ない景色と普段は通り過ぎてしまう場所でも、水辺に対する想いや歴史などを振り返りながら訪れてみると、新しい発見やいつもとはちよつと違うすてきな景色が見えるかもしれません。

かすかべプラスをご覧の皆さんも春日部の川・水辺に実際に足を運んで、身近な自然の豊かさを肌で感じて、自分のお気に入りのスポットを探してみたいいかがですか？

(春日部市シティセールス広報課)

春日部がもっと好きになる、まちの情報誌
kasukabe+2017 FALL/WINTER

発行日 平成29年10月
発行 春日部市シティセールス広報課
〒344-8577 埼玉県春日部市中央六丁目2番地
tel 048-736-1111
ISSN 2188-1928

制作協力・印刷・製本/株式会社文化工房
※本誌の無断転載・複製を禁じます。

